

福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所における対応状況について
(平成 23 年 12 月版) 変更点一覧

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
1	【避難及び安否確認】 ・事務本館では、避難場所である・・・	1	【地震発生時の状況】として全体見直し。
-	なし	2	【発電所緊急時対策本部（以下、「発電所対策本部」）での対応】新設
1	【通常のスクラム対応操作】 <1/2号中央制御室>	2	【中央制御室での対応】 <1,2号機中央制御室>
1	なし	2	・地震発生時、当直 14 名と作業管理グループ 10 名・・・
1	・地震の揺れの収まるのを待って、・・・ 当直長へ報告。	2	・揺れが収まるのを待って、・・・当直長へ報告。外部電源喪失となり、D/G が起動し、非常用母線が充電されたことを確認する。パラメータも問題なしという報告を受け、当直長は「このまま収束（冷温停止）に持って行ける」と感じていた。
1	なし	2	・地震後、運転員は、1,2号機それぞれに対して、・・・
1	・14:52,1号機の非常用復水器（以下、「IC」）について、自動起動したことを確認。・・・	2	・14:52,1号機の非常用復水器（以下、「IC」）が、原子炉圧力高により自動起動したことを確認。・・・
1	・2号機については、原子炉隔離時冷却系（以下、「RCIC」）を手動起動するも、原子炉水位高でトリップしたことを確認する。（その後、再度、手動起動実施）	3	・2号機については、14:50,原子炉隔離時冷却系（以下、「RCIC」）を手動起動。14:51,原子炉への注水により原子炉水位高で自動停止したことを確認。その後、15:02に手動起動し、15:28に再度原子炉水位高で自動停止する。15:39に再度手動起動。
2	<3/4号中央制御室> なし	3	<3,4号機中央制御室> ・地震発生時、当直 9 名、・・・
2	・3号機について、RCICを手動起動し、原子炉水位高でトリップしたことを確認する。 ・地震後、当直員の安否確認を行い、地震発生と津波について、ページングで周知を行う。	3	・地震後、当直員の安否確認を行い、地震発生と津波及び避難について、発電所構内一斉ページングの形で周知を行う。 ・3号機については、15:05,RCICを手動起動。15:25,原子炉への注水により原子炉水位高で自動停止したことを確認する。
2	<5/6号中央制御室> なし	3	<5,6号機中央制御室> ・地震発生時、当直 9 名、作業管理グループ 8 名、・・・
2	・当直長は、自席でパネルを確認しながら、・・・ほとんどの警報が鳴り響く中、警報確認を実施。	3	・当直長は、自席でパネルを確認しながら、・・・ほとんどの警報が鳴り響く中、警報確認を実施。外部電源喪失となり、D/G が起動し、非常用母線が充電されたことを確認する。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ページングとITVが使用出来なかったため、PHSにて現場に対して退避を指示。当直員は、控え室に集まってから、中央制御室に戻ってきた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地震後、ページングとPHSにて現場に対して地震発生と津波及び避難を周知。当直員は、現場の控え室に集まってから、中央制御室に戻ってきた。 ・屋外監視カメラ(ITV)を用いて津波の監視を試みるも、使用出来なかった。
-	なし	4	【津波到達時の状況】新設
2	<p>【1/2号中央制御室の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全交流電源喪失に伴い、照明、表示灯が徐々に消えていく中、警報音もなくなり、中央制御室1号側照明は非常灯のみ、2号側照明は真っ暗となる。当直長の指示に基づき、使用出来る設備、使用できない設備の確認を実施。 	5	<p>【中央制御室での状況】</p> <p><1,2号機中央制御室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・警報表示や状態表示灯が点滅し、一斉に消えていった。鳴っていた警報音も消え、中央制御室内は一瞬シーンとなった。最初は何が起きたか分からず、目の前で起こっていることが本当に現実なのかと疑いたくなるような状況。現場に行っていた運転員が「海水が流れ込んできている」と、中央制御室に大声で叫びながら戻ってきて、中央制御室の運転員は津波の襲来を知った。 ・D/Gが停止し、全交流電源が喪失。中央制御室1号機側照明は非常灯のみ、2号機側照明は真っ暗となる。当直長の指示に基づき、使用出来る設備、使用出来ない設備の確認を実施。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・直流電源で操作可能な設備として、・・・。ICは、弁開閉表示が確認できない状態であることを確認。HPCIについては、制御盤でうっすらと表示灯が点灯していることを確認したが、その後消灯したため、起動不能と判断。2号機について、RCICの起動状態が不明となる。 ・15:50頃には、計測用電源が喪失し、原子炉水位が不明となる。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・直流電源で操作可能な設備として、・・・。ICは、表示灯が消灯しており、開閉状態が確認出来なかった。HPCIについては、制御盤の状態表示灯が全て消灯し、起動不能な状態。2号機については、RCICの状態が不明となる。HPCIは、制御盤で状態表示灯が消灯し、起動不能な状態。15:50頃には、原子炉水位が不明となっていることを確認。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室と発電所緊急時対策本部(以下、「発電所対策本部」)間の通信手段は、PHSは利用出来ず、ホットラインと固定電話のみとなる。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室と発電所対策本部間の通信手段は、最終的にPHSは利用出来ず、ホットライン2回線のみとなる。(3,4号機、5,6号機の中央制御室も同様)
2	【3/4号中央制御室の状況】 なし	5	<p><3,4号機中央制御室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・D/Gが停止し、全交流電源が喪失したが、3号機について、・・・
2	<ul style="list-style-type: none"> ・全交流電源喪失に伴い、中央制御室の照明は非常灯のみとなる。懐中電灯を用意し、4号機は定検中で全燃料取り出し状態であったため、3号機を中心に、原子炉水位等のパラメータを確認する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・全交流電源喪失により、中央制御室の照明は非常灯のみとなる。2月頃に現場巡視用にLEDライトが導入されており、これを明かりに活用。4号機は定検中であったため、3号機を中心に、原子炉水位等のパラメータを確認する。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
2	<ul style="list-style-type: none"> 全交流電源喪失時のマニュアルに従い、RCIC、HPCIのバッテリーを出来るだけ長く維持できるよう、必要のない負荷を落とす操作を行う。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 全交流電源喪失時の手順書をもとに、RCIC、HPCIの運転制御に必要なバッテリーを出来るだけ長く維持できるよう、監視及び運転制御に最低限必要な設備を除き、負荷の切り離しを行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 16:03にRCICを手動起動し、中央制御室で吐出圧力や回転数を確認し、運転状況を監視し、HPCIの起動に備える。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 16:03に中央制御室の操作スイッチにてRCICを起動し、原子炉水位、RCICの吐出圧力や回転数を確認し、原子炉の水位確保を行う。
-	なし	6 7	<ul style="list-style-type: none"> 【消防隊による避難誘導、津波監視】 【構内道路の健全性確認の実施】 【構内道路の復旧作業実施】 新設
-	なし	8	<ul style="list-style-type: none"> 【防護区域内への移動経路の確保】 新設
3	<p>【中央制御室内計器類の復旧作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央制御室の照明仮復旧のために、緊対本部復旧班は、小型発電機を準備・設置。20:49、1/2号中央制御室、21:58、3/4号中央制御室に仮設照明が設置される。 	8	<p>【中央制御室内仮設照明の復旧作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 復旧班は、中央制御室の照明が・・・ 構内協力企業が工事用に所有していた小型発電機を、・・・ 小型発電機から1,2号機及び3,4号機中央制御室まで電工ドラムをつないで仮設照明に接続。20:47に1,2号機中央制御室、21:27に3,4号機中央制御室に、ごく一部ではあるが仮設照明により明かりが点された。 その後、小型発電機に定期的に給油を実施。
3	<p>【中央制御室内計器類の復旧作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発電所対策本部復旧班は、中央制御室内の計器類の復旧のために、・・・始める。収集できたものから・・・。「非常用炉心冷却装置注水不能」事象が発生し、原子炉への注水状況を把握することが最優先だったことから、直流電源で動作する原子炉水位計から順次バッテリーを接続し、復旧作業を始める。 	8 9	<p>【中央制御室内計器類の復旧作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 復旧班は、中央制御室内の計器類の復旧のために、・・・始める。2~3名一組で、免震重要棟から徒歩で協力企業事務所へ向かい、収集できたバッテリーを、協力企業から借りた業務車で、2,3号機間のゲートを通して、1,2号機中央制御室に運ぶ。 収集できたものから・・・。原災法の第15条事象『非常用炉心冷却装置注水不能』が発生し、原子炉への注水状況を把握することが最優先だったことから、直流電源で動作する原子炉水位計から順次バッテリーを接続し、復旧作業を始める。
3	なし	9	<ul style="list-style-type: none"> 作業場所である制御盤裏は、中央制御室の仮設照明設置後も照明が・・・
3	<ul style="list-style-type: none"> 21:19に1号機の、21:50に2号機の水圧が判明。 	9	<ul style="list-style-type: none"> 21:19に1号機、21:50に2号機の原子炉水位が判明した。
3	なし	9	<ul style="list-style-type: none"> その後も、構内にある業務車からの取り外しや、・・・
-	なし	9 10	<ul style="list-style-type: none"> 真ん中写真以降、追加。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
3 4	【電源確保, 復旧作業の開始】 < 電源車の確保 > 本店配電部門から全店に対して・・・	11 ~ 20	「電源復旧に関する対応状況について」を 新設し, 移行, 追加。
4 5	【原子炉への注水状況確認】 < 2号機, RCIC の運転状況確認, 操作 > 3/12 未明, 当直員が,・・・	49 50	【原子炉隔離時冷却系 (以下, 「RCIC」) の状況確認】へ移行, 追加。
6	15:03 頃 操作手順書で定める原子炉圧 力容器温度降下率 55 /h を遵守する ために, IC の戻り配管隔離弁 (MO-3A,3B) を一旦「全閉」。その後, IC の戻り配管隔離弁 (MO-3A) の開閉によ る原子炉圧力制御開始。	21	15:03 頃 原子炉冷却材温度降下率 55 /h を遵守するために, IC の戻り配管隔離弁 (MO-3A,3B) を一旦「全閉」。その後, IC による原子炉圧力制御開始。
6 19 30 39 42 46	なし	21 42 61 83 87 91	16:00 頃 構内道路の健全性確認を開始。
6 19 30 39 42 46	なし	21 42 61 83 87 91	16:10 本店配電部門から全店に高・低圧電 源車の確保と移動経路の確認指示。
	なし	21 42 61 83	16:39 電源設備 (外部電源, 所内電源) の 健全性確認を開始。
6 19 30 39 42 46	なし	22 42 61 83 87 91	16:50 全店の高・低圧電源車が福島に向け 順次出発。
6	なし	22	16:55 ディーゼル駆動消火ポンプの現場 確認を開始。
7	17:30 ディーゼル駆動消火ポンプ起動 (待機状態)。	22	17:30 故障復帰操作により, ディーゼル駆 動消火ポンプが自動起動したが, 原子炉代 替注水ラインが未構成だったため停止 (そ の後, 起動しないよう停止状態で保持)。
7	なし	22	18:38 原子炉代替注水ライン構成を開始。
7 19 30 39	なし	22 43 61 83	19:00 頃 2,3 号機の間にあるゲートを開 放, 1~4 号機への車両の通行ルートを確認。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
7 19 30 39 42 46	なし	22 43 61 83 87 91	19:24 構内道路の健全性確認の結果を発電所対策本部に報告。
7 19	20:49 中央制御室内の仮設照明が点灯。	22 43	20:47 中央制御室内の仮設照明が点灯。
7	20:50 原子炉代替注水ラインが完成したことから、待機状態を解除し、ディーゼル駆動消火ポンプ起動。	22	20:50 原子炉代替注水ラインが完成したことから、停止状態の保持を解除し、故障復帰操作により、ディーゼル駆動消火ポンプ自動起動(原子炉減圧後に注水可能な状態)。
7 20 30	なし	22 43 61	20:56 電源設備(外部電源、所内電源)の健全性確認結果を発電所対策本部に報告。
7	22:00 原子炉水位が TAF+550mmであることを確認、22:20 官庁等に連絡。	22	22:10 原子炉水位が TAF+450mm 近辺にあることを官庁等に連絡。
7 20 30 39 42 46	なし	22 43 62 84 87 91	22:00 頃 東北電力第一陣、高圧電源車1台の到着を確認。
7	23:00 ……(タービン1階北側二重扉前 1.2mSv/h、タービン1階南側二重扉前 0.5mSv/h) ……	22	23:00 ……(タービン建屋1階北側二重扉前 1.2mSv/h、タービン建屋1階南側二重扉前 0.5mSv/h) ……
7 20 30 39 43 46	なし	23 43 62 84 88 92	1:20 頃 当社の高圧電源車1台の到着を確認。
7	1:48 不具合によるディーゼル駆動消火ポンプ停止を確認。消防車から消火系ラインへの送水口につなぎこむことを検討開始。	23	1:48 ディーゼル駆動消火ポンプ停止を確認。 2:03 消防車から消火系ラインの送水口につなぎこむことを検討開始。
8	なし	23	4:00 頃 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水注入開始、1,300 リットルを注入完了。
8	5:46 原子炉内に消火系ラインから消防車による淡水注入開始。	23	5:46 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水注入再開。
8	5:52 消防車により消火系ラインから淡水 1,000 リットルを注入完了。	23	5:52 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 1,000 リットルを注入完了。
8	6:30 消防車により消火系ラインから淡水 2,000 リットル(累計)注入完了。	23	6:30 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 1,000 リットルを注入完了。
8	7:55 消防車により消火系ラインから淡水 3,000 リットル(累計)注入完了。	24	7:55 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 1,000 リットルを注入完了。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
8	8:15 消防車により消火系ラインから淡水 4,000 リットル (累計) 注入完了。	24	8:15 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 1,000 リットルを注入完了。
8	8:30 消防車により消火系ラインから淡水 5,000 リットル (累計) 注入完了。	24	8:30 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 1,000 リットルを注入完了。
8	8:37 ……避難が完了してからベントをすることで調整。	24	8:37 ……避難状況を確認してからベントをすることで調整。
8	9:04 ベントの操作を行うため当直員が現場へ出発。	24	9:04 ベントの操作を行うため運転員が現場へ出発。
8	9:15 消防車により消火系ラインから淡水 6,000 リットル (累計) 注入完了。	24	9:15 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 1,000 リットルを注入完了。
8	9:40 消防車により消火系ラインから淡水 21,000 リットル (累計) 注入完了。	24	9:40 消防車により消火系ラインから原子炉内に淡水 15,000 リットルを注入完了。
8	9:53 ベントを実施した場合の被ばく評価結果を官庁等に連絡。	24	9:53 再度、ベントを実施した場合の被ばく評価結果を官庁等に連絡。
8 20 31 40 43 47	なし	24 44 62 84 88 92	10:15 頃 当社及び東北電力が派遣した電源車 72 台が、福島に到着していることを確認 (高圧電源車：福島第一 12 台、福島第二 42 台、低圧電源車：福島第一 7 台、福島第二 11 台)。
8	10:40 正門及びモニタリングポストの線量が上昇していることが確認された……	24	10:40 正門及びモニタリングポスト No8 付近の放射線量が上昇していることが確認された……
9	14:53 消防車による原子炉への淡水注入、80 トン (累計) 注入完了。	25	14:53 消防車による原子炉への淡水注入、約 80,000 リットル (累計) を注入完了。
9	15:36 電源車を用いた電源復旧により、原子炉へのほう酸水注入系による注水準備完了。	25	15:30 頃 高圧電源車から 2 号機 P/C を介して 1 号機 MCC に電源を供給する経路を構成、ほう酸水注入系ポンプ手前まで送電を開始。
9 20 40 43 47	16:27 モニタリングポストで 500 μ Sv/h を超える線量 (1,015 μ Sv/h) を計測した……	25 44 84 88 92	16:27 モニタリングポスト No4 付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量 (1,015 μ Sv/h) を計測した……
9	18:05 経済産業大臣から法令に基づく命令があったことを本店・発電所間で共有。	25	18:05 経済産業大臣から法令に基づく命令 (注水すること) があったことを本店・発電所間で共有。
10 ~ 14	「1号機 代替注水に関する対応状況について」	26 ~ 36	「1号機 注水に関する対応状況について」として、DDFP の対応状況、消防車による注水開始に至る経緯、爆発時の状況等を追加。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
15	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所対策本部復旧班は、余震が続く中、地震で入室禁止となった事務本館に、<u>ベント操作に必要な S/C ベント弁 (A0 弁) を手動で開けることが可能かどうか、弁の型式・構造を確認するために図面を取りに行くとともに、協力企業へも問い合わせを実施。図面を確認した結果、S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁にハンドルがあり、手動で開けることが可能であることを確認し、中央制御室に連絡。</u> 	37	<ul style="list-style-type: none"> ・復旧班は、<u>ベント操作に必要な圧力抑制室 (以下、「S/C」) ベント弁 (空気作動弁、以下「A0 弁」) が手動操作可能な型式・構造であるか確認するために、関連する図面の調査や、協力企業への問い合わせを実施。図面により、S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁に手動操作用のハンドルがあり、手動で開けることが可能であることを確認し、中央制御室に連絡。</u>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・23:50 頃、中央制御室で発電所対策本部復旧班が、<u>・・・小型発電機を D/W 圧力計に繋いで指示値を確認したところ、600kPa abs であることを確認し、発電所対策本部へ報告。</u> 	38	<ul style="list-style-type: none"> ・23:50 頃、中央制御室で復旧班が、<u>・・・小型発電機を D/W 圧力計に繋いだところ、指示値が 600kPa[abs]であることを確認し、発電所対策本部へ報告。</u>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・2:24、ベントの現場操作に関する作業時間の評価結果が発電所対策本部に報告される。<u>300mSv/h の雰囲気であれば緊急時対応の線量限度 (100mSv/h) で 17 分の作業時間 (セルフエアセットの時間は 20 分。ヨウ素剤の服用が必要) と報告。</u> 	38	<ul style="list-style-type: none"> ・2:24、ベントの現場操作に関する作業時間の評価結果として、<u>300mSv/h の環境であれば緊急時対応の線量限度 (100mSv) で 17 分の作業時間 (セルフエアセットの時間は 20 分。ヨウ素剤の服用が必要) であることが発電所対策本部に報告される。</u>
16	<p>528.3kPa abs (= 427kPa gage + 101.3kPa)</p>	38	<p>最高使用圧力 427 kPa[gage]は、絶対圧換算で 528.3kPa[abs] (528.3kPa[abs] = 427kPa[gage] + 101.3kPa)</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・4:45 頃、発電所対策本部より 100mSv にセットした APD と全面マスクが中央制御室に届けられる。 	38	<ul style="list-style-type: none"> ・4:45 頃、発電所対策本部より 100mSv にセットした APD が中央制御室に届けられる。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室では、<u>線量が上がってきたことから、当直長は、当直員を線量の低い 2 号側に寄らせる。</u> 	39	<ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室では、<u>放射線量が上がってきたことから、当直長は、運転員を線量の低い 2 号機側に寄らせる。</u>
16 17	<ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室では、<u>全くの暗闇のため 1 人では作業が困難であること、高線量が予測され、余震で引き返すことを考慮して、2 名 1 組の 3 班体制 (当直長、副長で構成) とした。</u> 	39	<ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室では、<u>現場は全くの暗闇のため 1 人では作業が困難であること、高線量が予測され、余震で引き返すことを考慮して、2 名 1 組の 3 班体制とした。また、通信手段がなく、現場に行くとも連絡が取れず、緊急避難時の救出が出来ない恐れがあるため、1 班ずつ現場に行き、中央制御室に戻ってから次の班が出発することとした。現場に向かうメンバーの人選では若い運転員も自ら手を挙げたが、完全装備で放射線量が高く、状況もわからない中へは、若い運転員を行かせることが出来ないと考え、当直長、副長をそれぞれ割り振るよう編成した。</u>
17	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県に 9:05 プレスしてベントすると連絡。 	39	<ul style="list-style-type: none"> ・9:03、福島県に 9:05 プレスしてベントすると連絡。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
17	<ul style="list-style-type: none"> ・9:04, PCV ベント操作を行うため当直員 2 名が現場へ出発。装備は、耐火服とセルフエアセット, APD。電源を喪失していたため、原子炉建屋、タービン建屋の現場は真っ暗の中、懐中電灯を持って出発。通信手段がなく、現場に行くと連絡が取れないため、1 班ずつ現場に行き、中央制御室に戻ってから次の班が出発することとした。 ・第 1 班が PCV ベント弁 (M0 弁) の開操作のために、中央制御室より現場へ出発。9:15 頃、手順通り 25%開として、中央制御室に戻る。被ばく線量は約 25mSv。 	39	<ul style="list-style-type: none"> ・12 日 9:04, 第 1 班の運転員 2 名が、耐火服とセルフエアセット, APD を着用、電源が喪失し、現場は真っ暗の中、懐中電灯を持って PCV ベント弁 (M0 弁) の手動開操作のために、中央制御室より原子炉建屋 2 階へ出発。9:15 頃、手順通り手動で 25%開として、中央制御室に戻る。被ばく線量は約 25mSv。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の操作のために、第 2 班が 9:24, 中央制御室を出発、トラス室に向かう。途中で線量が上昇し、・・・ 	40	<ul style="list-style-type: none"> ・S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の手動開操作のために、第 2 班が 12 日 9:24, 中央制御室を出発、原子炉建屋地下 1 階のトラス室に向かう。途中で放射線量が上昇し、・・・
17	<ul style="list-style-type: none"> ・現場での S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の開操作ができなかったことを受け、発電所対策本部では、仮設コンプレッサー接続箇所の検討を開始 (11:00 頃まで)。また、S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の空気の残圧に期待して、中央制御室での S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁開操作の実施を指示。 	40	<ul style="list-style-type: none"> ・現場での S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の手動開操作ができなかったことを受け、復旧班では、S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の遠隔操作に必要な加圧空気を確保するために、仮設コンプレッサーの手配や接続箇所の検討を開始。
17	<p>【S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の遠隔開操作 (計装用圧縮空気系の残圧に期待), モニタリングポスト (以下, 「MP」) 指示値上昇】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10:17, 1 回目の開操作を実施したが、開となったか不明。 ・10:23, 2 回目の開操作を実施したが、開となったか不明。 ・10:24, 3 回目の開操作を実施したが、開となったか不明。 	40	<p>【S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の遠隔開操作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計装用圧縮空気 (以下, 「IA」) 系の空気の残圧に期待して、中央制御室で S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の開操作を行うこととし、12 日 10:17, 10:23, 10:24 の計 3 回、中操仮設照明用小型発電機を電源として S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁の電磁弁を励磁し、開操作を実施。開となったかは確認できなかった。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・10:40 に正門及び MP の線量が上昇していることが確認されたことから、発電所対策本部では、・・・, 11:15, 線量が下がっていることから、・・・ 	40	<ul style="list-style-type: none"> ・10:40 に発電所正門付近及び発電所周辺でのモニタリングポスト付近の放射線量が上昇していることが確認されたことから、発電所対策本部では、・・・, 11:15, 放射線量が下がっていることから、・・・
18	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所対策本部復旧班では、仮設コンプレッサーを探していたところ、協力企業にあるとの情報を受け、・・・取り付け箇所を決定。 	40 41	<ul style="list-style-type: none"> ・復旧班では、仮設コンプレッサーを探していたところ、構内の協力企業にあるとの情報を受け、・・・取り付け箇所を原子炉建屋大物搬入口外の液体窒素ガス供給盤の計器ラック内にある IA 系の銅管ヘッダーに決定。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
18	・12:30 頃、アダプターを探し行くと共に、……。線量が高かったため、原子炉建屋大物搬入口外に設置。14:00 頃、仮設コンプレッサーを起動。	41	・12 日 12:30 頃、アダプターを探しに行くと共に、……。放射線量が高かったため、原子炉建屋大物搬入口外の液体窒素タンク付近に設置。液体窒素ガス供給盤の計器ラック内にある IA 系の銅管ヘッダーに接続し、14:00 頃、仮設コンプレッサーを起動。
18	なし	41	「ベントライン構成のために操作を行った弁」の図追加
19	14:51 R C I C 停止 (原子炉水位高)	42	14:51 R C I C 自動停止 (原子炉水位高)
19	15:28 R C I C 停止 (原子炉水位高)	42	15:28 R C I C 自動停止 (原子炉水位高)
20	22:00 原子炉水位が判明し、……。時間がかかると評価、22:10、22:20 官庁等に通報。	43	21:50 原子炉水位が判明し、……。時間がかかると評価、22:10、官庁等に通報。
20	なし	43	1:20 ディーゼル駆動消火ポンプが停止していることを確認。
20	なし	43	4:20 R C I C の水源切替を開始。
20	なし	43	5:00 R C I C 水源切替完了。
20	なし	44	15:30 頃 高圧電源車から 2 号機 P/C を介して 1 号機 MCC に電源を供給する経路を構成、1 号機ほう酸水注入系ポンプ手前まで送電を開始。
20	なし	44	15:36 1 号機原子炉建屋で爆発発生。
20	17:30 ベント操作の準備を開始するよう発電所長指示。	44	17:30 ベントの準備を開始するよう発電所長指示。
20	なし	44	8:30 高圧電源車を起動し、2 号機 P/C への再送電を試みるも過電流リレーが動作し、送電できず。
20 31 40 43 47	8:56 モニタリングポストで 500 μ Sv/h を超える線量……	44 63 84 88 92	8:56 モニタリングポスト No4 付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量……
21	なし	44	13:10 バッテリーを逃がし安全弁 (以下、「SRV」) 制御盤に繋ぎ込み、操作スイッチで開操作出来る状態を構成。
21 32 40 43 47	14:15 モニタリングポストで 500 μ Sv/h を超える線量……	44 64 84 88 92	14:15 モニタリングポスト No4 付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量……
21 32 40 43 47	2:20 正門付近で 500 μ Sv/h を超える線量……	45 64 84 89 93	2:20 正門付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量……

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
21 32 40 43 47	2:40 モニタリングポストで 500 μ Sv/h を超える線量・・・	45 64 85 89 93	2:40 モニタリングポスト <u>No2 付近</u> で 500 μ Sv/h を超える放射線量・・・
21 32 40 44 47	4:00 モニタリングポストで 500 μ Sv/h を超える線量・・・	45 64 85 89 93	4:00 モニタリングポスト <u>No2 付近</u> で 500 μ Sv/h を超える放射線量・・・
21 32 40 44 47	9:12 モニタリングポストで 500 μ Sv/h を超える線量・・・	45 64 85 89 93	9:12 モニタリングポスト <u>No3 付近</u> で 500 μ Sv/h を超える放射線量・・・
21	11:01 3号機原子炉建屋の爆発により、 <u>圧力抑制室(以下、「S/C」)ベント弁(A0弁)大弁が閉となる。開不能を確認。準備が完了していた注水ラインは、消防車及びホースが破損して使用不可能。</u>	45	11:01 3号機原子炉建屋の爆発。
21	なし	45	12:50 <u>圧力抑制室(以下、「S/C」)ベント弁(A0弁)大弁の電磁弁励磁用回路が外れ閉を確認。</u>
21	13:05 消防車を含む海水注入のライン構成を再開。	45	13:05 <u>準備が完了していた注水ラインは、消防車及びホースが破損して使用不可能であったことから、消防車を含む海水注入のライン構成を再開。</u>
22	21:20 <u>逃がし安全弁(以下、「SRV」)を2弁開し、・・・</u>	46	21:20 <u>SRVを2弁開し、・・・</u>
22 32 40 44 48	21:35 <u>モニタリングカーで500 μ Sv/hを 超える線量・・・</u>	46 65 85 89 93	21:35 <u>正門付近で500 μ Sv/hを 超える放射線量・・・</u>
22	0:02 <u>D/Wベント弁(A0弁)小弁開操作。 ラプチャーディスクを除く、ベントライン 構成完了(数分後に弁が閉であることを 確認)</u>	46	0:01 <u>D/Wベント弁(A0弁)小弁開操作、 数分後に閉であることを確認。</u>
22 33 41 44 48	なし	46 65 85 89 93	5:35 <u>福島原子力発電所事故対策統合本部 設置。</u>
22	6:00～6:10 頃 大きな衝撃音が発生。S/C 圧力が OMPaabs となる。	46	6:00～6:10 頃 大きな衝撃音が発生。S/C 圧力の指示値が OMPaabs となる。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
22 33 41 44 48	6:50 正門付近で 500 μSv/h を超える線量・・・	46 65 85 89 93	6:50 正門付近で 500 μSv/h を超える放射線量・・・
22 33 41	8:11 正門付近で 500 μSv/h を超える線量・・・	46 65 85	8:11 正門付近で 500 μSv/h を超える放射線量・・・
23 33 41 44 48	16:00 正門で 500 μSv/h を超える線量・・・	46 65 85 90 93	16:00 正門付近で 500 μSv/h を超える放射線量・・・
23 33 41 44 48	23:05 正門で 500 μSv/h を超える線量・・・	47 65 86 90 93	23:05 正門付近で 500 μSv/h を超える放射線量・・・
24 26	「2号機 代替注水に関する対応状況について」	48 54	「2号機 注水に関する対応状況について」として、代替注水ラインの構成状況、RCICの運転確認状況などを追加。
27	・計器類の復旧作業の結果、21:50 に原子炉水位が判明（燃料有効頂部+3400mm）、23:25、D/W 圧力が判明（0.141MPa abs）。また、3/12 2:55 には、RCIC の運転が・・・	55	・計器類の復旧作業の結果、11日 21:50 に原子炉水位が判明（有効燃料頂部+3400mm）、23:25、ドライウエル（以下、「D/W」）圧力が判明（141kPa[abs]）。また、3/12 2:55 には、原子炉隔離時冷却系（以下、「RCIC」）の運転が・・・
27	・RCICによる・・・3号機と合わせてベントラインナップ準備を開始。現場の線量も低かったことから・・・	55	・RCICによる・・・3号機と合わせてベントライン構成に向けた検討を開始。現場の放射線量も低かったことから・・・
27	・3/12 0:06 に、・・・、AM手順書、1号機のベント操作手順等を基に、ベントに必要な弁の操作方法（原子炉格納容器（以下、「PCV」）ベント弁（MO弁）は手動で開操作可能、圧力抑制室（以下、「S/C」）ベント弁（A0弁）は手動での開操作不可）を確認し、・・・	55	・12日 0:06 に、・・・、アクシデントマネジメント手順書、1号機のベント操作手順等を基に、ベントに必要な弁の操作方法（格納容器（以下、「PCV」）ベント弁（電動弁、以下「MO弁」）は手動で開操作可能、圧力抑制室（以下、「S/C」）ベント弁（空気作動弁、以下「A0弁」）は手動での開操作不可）を確認し、・・・
27	・PCV ベント弁（MO弁）の手動での開操作のために、当直員はセルフエアセットなど必要な装備を着用し、・・・	55 56	・PCV ベント弁（MO弁）の手動での開操作のために、運転員は全面マスクなど必要な装備を着用し、・・・

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
27	<ul style="list-style-type: none"> ・11:00, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の電磁弁を中央制御室仮設照明用小型発電機により励磁させ開操作実施。ラブチャードディスクを除く, ベントライン構成完了。 	56	<ul style="list-style-type: none"> ・13 日 10:15, 発電所長よりベント実施の指示が出された。復旧班は, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁を開けるために, 既設の空気ボンベ出口弁を開け, 中央制御室仮設照明用小型発電機を電源として電磁弁を励磁し, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開操作を実施。 ・13 日 11:00, ラブチャードディスクを除く, ベントライン構成完了。
28	なし	56	<ul style="list-style-type: none"> ・S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開状態を維持するために, 空気ボンベに加えて, …
28	なし	56	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 1:55 頃, 福島第二原子力発電所より仮設コンプレッサーが到着。3:00 頃, タービン建屋 1 階
28	<p>「3/14 11:01 3号機原子炉建屋の爆発 (中略) 準備が完了していた注水ラインは, 消防車及びホースが破損して使用不可能」以降の活動内容</p>	56	<p>「3/14 11:01 3号機原子炉建屋の爆発」以降の活動内容</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発の影響により, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の電磁弁励磁用回路が外れ, 閉となる。ベントラインナップが再度必要となった。 	56	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 12:50, 爆発の影響により, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の電磁弁励磁用回路が外れ, 閉となったことを確認。
28	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発後, 中央制御室の当直員を除く作業員は, … 	56	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発後, 中央制御室の運転員を除く作業員は, …
28	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発後の退避指示解除の後, 16:00 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開操作を実施したが, 16:20 頃, 空気圧縮機からの空気が十分でなく, 開操作できず。 	56	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発後の退避指示解除の後, 原子炉への消防車による注水のためには, 逃がし安全弁 (以下, 「SRV」) 開による原子炉圧力の減圧が必要であった。この頃, S/C の温度・圧力が高く, SRV を開としても, S/C で蒸気が凝縮せず減圧しにくい可能性があったことから, ベントの準備をしてから SRV を開けて原子炉を減圧することとし, 14 日 16:00 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開操作を実施。 ・14 日 16:20 頃, 電磁弁が励磁されているものの, 仮設コンプレッサーによる空気の加圧が十分でなく, 開操作できず。16:28 頃, SRV による原子炉の減圧を優先することに変更, ベントの準備についても並行して実施するよう発電所長から指示。
28	なし	57	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 18:00 頃に原子炉の減圧を開始。
28	<ul style="list-style-type: none"> ・D/W 圧力に … S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁は, 電磁弁の不具合により開不能となったと推定。 	57	<ul style="list-style-type: none"> ・D/W 圧力に … S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁は, 仮設コンプレッサーによる空気の加圧がされていることが確認できたため, 電磁弁の不具合 (地絡) により開不能となったと推定。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
28	<ul style="list-style-type: none"> ・21:00 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁が微開となり, ラプチャーディスクを除く, ベントのラインナップ完成。 	57	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 21:00 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁が電磁弁の励磁により微開となり, ラプチャーディスクを除く, ベントのライン構成完成。
28	<p>【D/W ベント弁小弁の開操作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22:50, D/W 圧力が上昇。最高使用圧力 427kPa gage を超えたことから, 原災法第 15 条事象「格納容器圧力異常上昇」と判断。 	57	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 22:50, 原子炉圧力と D/W 圧力が上昇 (原子炉圧力 1.823MPa [gage], D/W 圧力 540kPa [abs])。D/W 圧力が最高使用圧力 427kPa [gage] を超えたことから, 原災法第 15 条事象「格納容器圧力異常上昇」と判断。
28	なし	57	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 23:00, 原子炉圧力 2.070MPa [gage], D/W 圧力 580kPa [abs]。原子炉圧力が上昇していることから, …… ・データコールは数分 ……
28	<ul style="list-style-type: none"> ・D/W 圧力は上昇傾向にある一方, …… D/W ベント弁 (A0 弁) 小弁を開けることによりベントを実施する方針を決定。 	57	<p>【D/W ベント弁小弁の開操作(D/W 圧力のみ上昇開始)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14 日 23:35 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁が開いていなかったことを確認。D/W 圧力は上昇傾向にある一方, D/W ベント弁 (A0 弁) 小弁を開けることによりベントを実施する方針を決定。23:30 のデータがコールされる。原子炉圧力は ……
28	なし	57	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 23:40, 原子炉圧力 1.170MPa [gage], D/W 圧力 740kPa [abs], S/C 圧力 300kPa [abs]。原子炉圧力は ……
28	なし	58	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所対策本部と D/W ベント弁 (A0 弁) 小弁の開操作を ……
	<ul style="list-style-type: none"> ・3/15 0:02, ラプチャーディスクを除くベントのラインナップ完成。数分後に同弁が閉であることを確認。(D/W 圧力は約 750kPa abs から低下せず。その後 D/W 圧力は高め安定で推移) 	58	<ul style="list-style-type: none"> ・15 日 0:01, D/W ベント弁 (A0 弁) 小弁の電磁弁を励磁して開操作したが, 数分後に閉であることを確認。
28	なし	58 59	<ul style="list-style-type: none"> ・15 日 0:05, 原子炉圧力 0.653MPa [gage], D/W 圧力 740kPa [abs]。D/W 圧力は低下しない。 …… 「ベントライン構成のために操作を行った弁」の図追加 ・15 日 0:22, 原子炉圧力 1.170MPa [gage], D/W 圧力 735kPa [abs]。原子炉圧力が …… ・15 日 1:10, SRV の開操作を行ったところ, 原子炉圧力が …… ・14 日夕方から中央制御室で対応を行っていた復旧班は, …… ・15 日 5:35, 福島原子力発電所事故対策統合本部が設置された。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
28	「3/15 6:00~6:10 頃 圧力抑制室付近で大きな衝撃音が発生」以降の活動内容	59	「3/15 6:00~6:10 頃 大きな衝撃音が発生。S/C 圧力の指示値が 0kPa[abs]となる。」以降の活動内容
28	・6:00~6:10 頃 大きな衝撃音が発生。圧力抑制室内圧力が OMPaabs を示す。	59	・15 日 6:00~6:10 頃 大きな衝撃音が発生。
28	なし	59	・1/2 号中央制御室では、・・・
28	なし	59	・この頃、3/4 号中央制御室・・・
28	なし	59	・15 日 6:00 の交代のために・・・
28	・プラントの監視, 応急復旧作業に必要な要員を除き, 一時的に福島第二へ避難。 ➢ 650 名が福島第二へ移動, 退避直後は約 70 名が本部に残留	59 60	・15 日 6:30 頃, 発電所対策本部では, プラントの監視, 応急復旧作業に必要な要員を除き, 一時的に福島第二へ移動することとし, 必要な人間を発電所対策本部各班長が指名, 約 650 名が福島第二へ移動。退避直後は約 70 名が発電所対策本部に残留。
29	・D/W 圧力等のパラメータは, 数時間ごとに当直員が中央制御室に行きデータを採取。	60	・D/W 圧力等のパラメータは, 数時間ごとに運転員が中央制御室に行きデータを採取。
30	21:58 中央制御室内の仮設照明が点灯。	62	21:27 中央制御室内の仮設照明が点灯。
30	なし	62	3:27 ディーゼル駆動消火ポンプ(以下, 「DDFP」) 起動せず。
31	なし	62	11:13 DDFP 自動起動。
31	なし	62	11:36 DDFP 停止。
31	11:36 R C I C トリップ	62	11:36 R C I C 自動停止。
31	なし	62	12:06 DDFP 起動, DDFP による代替 S/C スプレイ開始。
31	なし	62	16:27 モニタリングポスト No4 付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量(1,015 μ Sv/h) を計測したことから, 原災法第 15 条第 1 項の規定に基づく特定事象(敷地境界放射線量異常上昇)が発生したと判断, 官庁等に通報。
31	17:30 格納容器ベント(以下, 「ベント」)の準備を開始するよう発電所長指示。	62	17:30 ベントの準備を開始するよう発電所長指示。
31	なし	62	20:36 原子炉水位計の電源喪失により原子炉水位が不明となる。
31	2:42 H P C I 停止。	62	2:42 ディーゼル駆動消火ポンプによる原子炉代替注水への切替のため, H P C I 停止。
31	なし	62	2:45 逃がし安全弁(以下, 「SRV」) 1 弁を開操作したが開動作せず。その後, 全弁を順次, 開操作するも開動作せず
31	なし	62	3:05 原子炉代替注水ラインの構成が完了したことを中央制御室に連絡。
31	なし	63	3:51 原子炉水位計復旧。
31	なし	63	4:52 圧力抑制室(以下, 「S/C」) ベント弁(A0 弁) 大弁を開操作するも, 空気ポンプの充填圧力が 0 で, 閉確認。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
31	なし	63	5:08 ディーゼル駆動消火ポンプによる代替 S/C スプレー開始 (7:43 停止)。
31	5:15 ラブチャーディスクを除く、ベントのラインナップの完成に入るよう発電所長指示。	63	5:15 ラブチャーディスクを除く、ベントラインの完成に入るよう発電所長指示。
31	なし	63	5:23 S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁を開操作するために、空気ポンペを交換開始。
32	なし	64	14:20 高圧電源車から 4 号機 P/C へ送電を開始。
32	なし	64	14:31 原子炉建屋二重扉北側で 300mSv/h 以上、南側 100mSv/h との測定結果が報告される。
32	なし	64	14:45 頃 原子炉建屋二重扉付近で放射線量が上昇し、1 号機と同様に原子炉建屋内に水素が溜まっている可能性があり、爆発の危険性が高まったことから、現場退避開始 (17:00 頃、作業再開)。
32	なし	64	6:30 頃 D/W 圧力が上昇し、爆発の可能性が懸念されたことから現場退避開始 (7:35 頃、作業再開)。
32	9:20 物揚場から逆洗弁ピット・・・	64	9:05 物揚場から逆洗弁ピット・・・
32	11:01 原子炉建屋で爆発発生。消防車やホースが損傷し、海水注入停止。	64	11:01 原子炉建屋で爆発発生。
32	なし	64	13:05 注水ラインは、消防車及びホースが破損して使用不可能であったことから、消防車を含む海水注入のライン構成を再開。
32	16:30 頃 消防車とホースを入れ替えて・・・	65	16:30 頃 爆発により、消防車やホースが損傷し、海水注入が停止していたため、消防車とホースを入れ替えて・・・
33	7:55 原子炉建屋上部に蒸気が浮いているのを確認、官庁等に連絡。	65	7:55 原子炉建屋上部に蒸気が漂っているのを確認、官庁等に連絡。
34 36	「3 号機 代替注水に関する対応状況について」	66 77	「3 号機 注水に関する対応状況について」として、RCIC/HPCI の運転操作状況、爆発防止対策の検討状況等を追加。
37	「3/12 17:30 格納容器ベントの準備を開始するよう発電所長指示。」以降の活動内容	78	「3/12 17:30 ベントの準備を開始するよう発電所長指示。」以降の活動内容
37	なし	78	・12 日 20:36、計測用電源の喪失により原子炉水位が不明となった。復旧班は、・・・
37	なし	78	・13 日 3:51、原子炉水位計復旧。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
37	<ul style="list-style-type: none"> 4:50 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁を開けるために, . . . 電磁弁を強制的に励磁させる。当直員が, トーラス室にて弁開度を確認したところ開度表示が閉となっていたため全閉と判断。なお, この頃のトーラス室は, 逃がし安全弁から S/C への原子炉の高温蒸気の吹き出し等によるトーラス室下部にある S/C 内の温度上昇の影響で室内は高温となっており, また, 照明がなく真っ暗であり, 厳しい作業環境であった。 	78	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 4:52, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁を開けるために, . . . 電磁弁を強制的に励磁させる。その後, 運転員が, 原子炉建屋地階のトーラス室にて S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の状態を確認したところ, 開度表示が閉であり, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁駆動用空気ポンベの充填圧力が 0 であった。この頃のトーラス室は, 蒸し暑く, また照明電源の喪失により, 真っ暗であり, 懐中電灯の明かりだけが頼りであった。さらに逃がし安全弁 (以下, 「SRV」) が作動していたため, S/C への蒸気放出の大きな振動, 大きな音がしていた。
37	<ul style="list-style-type: none"> 5:15 頃, ベントラインのラブチャーディスクを除く, ベントへのラインアップの完成作業およびプレス準備を開始するよう発電所長指示。 	78	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 5:15, ラブチャーディスクを除く, ベントラインの完成作業およびプレス準備を開始するよう発電所長指示。
37	<ul style="list-style-type: none"> 5:23 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の電磁弁は励磁されているものの開とならないため, ポンベ交換が必要と判断。その後, ポンベを交換し開とする。 	78 79	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 5:23 頃, 復旧班は, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁駆動用空気ポンベの充填圧力が 0 であったことから復旧作業開始。原子炉建屋 1 階にある D/W 酸素濃度計の校正用ポンベ 3 本のうち 1 本を取り外し, 原子炉建屋 1 階南側の A0 弁駆動用空気ポンベラックのポンベと交換, ポンベ接続部の漏えい確認を行い, ポンベ圧を含めて健全であることを確認。
37	なし	79	<ul style="list-style-type: none"> その後, 運転員が, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開閉状態を確認するために原子炉建屋地階の . . .
37	<ul style="list-style-type: none"> 8:35 頃, ベント弁 (M0 弁) を手動で開操作し, 手順通り 15%開とする。 	79	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 8:35, ベント弁 (M0 弁) を手動で開操作し, 15%開とする。
37	<ul style="list-style-type: none"> 8:41 にベントラインナップ完了。ラブチャーディスク破裂待ちとなる。 	79	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 8:41 にベントラインの構成が完了したことが発電所対策本部に報告され, ラブチャーディスク破裂待ちとなる。
38	<ul style="list-style-type: none"> 緊対本部では, 9:24 に, D/W 圧力が, 0.637 MPa abs (9:10) から 0.540 MPa abs (9:24) まで減圧されたことを確認, 9:20 頃にベントが実施されたと判断した。 	79	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 9:08 頃, SRV が開いて原子炉の急速減圧開始。D/W 圧力が, 470kPa[abs] (8:55) から 637kPa[abs] (9:10) に上昇後, 540kPa[abs] (9:24) まで減圧されたことを確認, 発電所対策本部は, 9:20 頃にベントが実施されたと判断した。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
38	<ul style="list-style-type: none"> 9:28 頃, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁に設置したポンベの空気圧が下がってきたことから, ポンベ接続部の増し締めなどに出動。リークが確認されたことから修理実施。 	79 80	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 9:28 頃, D/W 圧力に一旦上昇傾向が認められた。中央制御室にいた復旧班は, 原子炉建屋 1 階南側の A0 弁駆動用空気ポンベラックにおいて, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の駆動用空気ポンベの状況確認を行ったところ, 接続部からリークが確認されたことから修理を実施。ポンベの残量があったことから, ポンベはそのままとし, 次の交換用ポンベとして, 2 本目の D/W 酸素濃度計校正用ポンベを取り外し, 近くに用意した。
38	なし	80	<ul style="list-style-type: none"> この頃, 原子炉建屋 1 階は, 霧が充満したようにモヤモヤと白くなり, ……
38	<ul style="list-style-type: none"> 11:17, ポンベ圧力抜けによる S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の閉を確認。駆動用ポンベを交換し, 開操作実施。12:30, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開を確認する。 	80	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 11:17, 復旧班は, ポンベ圧力抜けにより S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁が閉となったことから開操作を開始。原子炉建屋 1 階は温度, 湿度とも高い可能性があったことから, セルフエアセットを着用 (作業時間 15 分) し, 2 班体制でポンベ交換作業を行うこととした。
38	なし	80	<ul style="list-style-type: none"> 1 班が, 原子炉建屋 1 階南側の A0 弁駆動用空気ポンベラック付近に用意していた 2 本目の ……
38	<ul style="list-style-type: none"> S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁を開ロックするために, トーラス室に行ったが, 室内が熱く, また, 逃がし安全弁動作による振動によって, 開ロックすることが出来なかった。 	80	<ul style="list-style-type: none"> この頃, 復旧班が S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の開ロックを試みたが, 実施することが出来なかった。
38	<ul style="list-style-type: none"> 14:31 頃, 原子炉建屋 ……。また, 15:28, 3 号中央制御室の線量が 12mSv/h となり, 当直員は 4 号中央制御室側に待避。 	80	<ul style="list-style-type: none"> 13 日 14:31, 原子炉建屋 ……。また, 15:28, 中央制御室の 3 号機側の放射線量が 12mSv/h となり, 移動できる運転員は 4 号機側に移動, プラント監視を継続。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
38	<ul style="list-style-type: none"> ・17:52 頃, 仮設コンプレッサー充填完了。緊对本部復旧班は, 線量が高かったため, 仮設コンプレッサーをユニック車でタービン建屋大物搬入口へ移動し, IA ラインに接続。 	80 81	<ul style="list-style-type: none"> ・13 日 15:00 頃より, D/W 圧力が再度上昇してきたことから, D/W 酸素濃度計校正用ポンベに加えて, 仮設コンプレッサーを設置することとした。復旧班は仮設コンプレッサーを協力企業より調達し, 17:52 頃, 仮設コンプレッサー設置のために現場に向かった。 230kPa[abs] (14:30) 260kPa[abs] (15:00) ・復旧班は, 放射線量が高かったため, 仮設コンプレッサーをユニック車でタービン建屋 1 階計測用圧縮空気系 (以下, 「IA」) 空気貯槽付近へ移動し, IA ラインに 13 日 19:00 頃接続完了。その後, 高線量の現場にて, 数時間毎に給油を継続し, 仮設コンプレッサーの運転状態を維持した。仮設コンプレッサーの容量が小さく, IA ライン全体が加圧されるのに時間がかかり, しばらく D/W 圧力に低下傾向は確認出来なかった。
38	<ul style="list-style-type: none"> ・21:10 頃, D/W 圧力低下により S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁が開となったと判断。 	81	<ul style="list-style-type: none"> ・13 日 21:10 頃, D/W 圧力低下により S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁が開となったと判断。 425kPa[abs] (20:30) 410kPa[abs] (20:45) 395kPa[abs] (21:00)
38	なし	81	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 3:40 頃, 中央制御室仮設照明用の小型発電機を・・・ ・14 日早朝, 福島第二原子力発電所より新たな仮設コンプレッサーを・・・
38	<ul style="list-style-type: none"> ・2:00 頃より, D/W 圧力が上昇傾向となってきたことから, S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁を開とすることとし, 3:40 頃, 電磁弁を強制的に励磁させる。 0.265MPa abs (2:00) 0.315MPa abs (3:00) 	81	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 2:00 頃より, D/W 圧力が上昇傾向となり, 原子炉への注水量を増やしても上昇傾向が止まらない状況となったことから, S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁を開とすることとし, 5:20 に S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁を開操作開始。その後, 6:10 に開操作完了。 255kPa[abs](1:30) 265kPa[abs](2:00)
38	なし	81	<ul style="list-style-type: none"> ・14 日 11:01, 3 号機原子炉建屋で爆発発生。
38	<ul style="list-style-type: none"> ・以降も, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁駆動用空気圧や空気供給ラインの電磁弁の励磁維持の問題から開状態維持が難しく, 開操作が複数回実施される。 ➢ 3/15 16:00 閉確認 / 3/15 16:05 開操作 ・以降も, S/C ベント弁 (A0 弁) 小弁駆動用空気圧や空気供給ラインの電磁弁の励磁維持の問題から開状態維持が難しく, 開操作が複数回実施される。 ➢ 3/15 16:00 閉確認 	81	<ul style="list-style-type: none"> ・15 日 16:00, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁, 小弁の電磁弁の励磁に用いていた小型発電機の故障により, 同弁が閉になったことを確認。その後, 16:05, 小型発電機を取替え, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁の電磁弁を励磁し, 開操作実施。 ・以降も, S/C ベント弁 (A0 弁) 大弁, 小弁駆動用空気圧や空気供給ラインの電磁弁の励磁維持の問題から開状態維持が難しく, 開操作が複数回実施された。

頁	変更前 (12/2 版)	頁	変更後 (12/22 公表版)
38		82	「ベントライン構成のために操作を行った弁」の図追加
39	なし	84	21:27 中央制御室内の仮設照明が点灯。
40	なし	84	14:20 高圧電源車から4号機 P/C へ送電を開始。
41	なし	85	6:55 4号機原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認。
44 48	なし	89 93	8:11 正門付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量 (807 μ Sv/h) を計測したことから、 <u>原災法第 15 条第 1 項の規定に基づく特定事象(火災爆発等による放射性物質異常放出)が発生したと判断, 8:36 官庁等に通報。</u>
45 48	8:58 西門付近で 500 μ Sv/h を超える線量・・・	90 94	8:58 西門付近で 500 μ Sv/h を超える放射線量・・・

(注)上記表に記載の他、「21:51」を「11日21:51」のように時間情報に日付を追加したものや、「緊对本部発電班」を「発電班」と記載を簡略化したもの、「の」「が」などの助詞を変更したものがあ

以上